

展示事業

1 常設展示

テーマ1 ふるさと江別 27点

1. 江別のできごと（歴史年表）
2. 開基、市勢、地勢
3. 江別の四季



テーマ4 町の発展 219点

1. 明治から大正へ
2. 昭和
3. 木製戦闘機キ106
4. 戦後の江別



テーマ2 大昔の江別 818点

1. 土器の移り変わり
（縄文・続縄文・擦文時代）
2. 江別文化の人々
3. 人々の暮らし
4. 北海道式古墳の謎
5. 古文書からみた江別



テーマ5 産業の歴史 195点

1. 農業
2. 酪農
3. 窯業
4. 水産業
5. 製紙業



テーマ3 開拓の始まり 136点

1. 対雁
2. 屯田兵
3. 北越殖民社
4. その他の開墾



テーマ6 チョウの世界

日本と南米ブラジル、ペルーなどに棲息する蝶のコレクションを展示



収蔵展示室 昔の道具・古写真などを展示

2 特別展示(ロビー展)

平成 29 年度

「写真で見る鉄道」

期 間 平成 29 年 7 月 15 日(土)～9 月 24 日(日)
内 容 江別市内には、かつてさまざまな鉄道が走っていた。この展示会では、今も残る函館本線(旧幌内鉄道)の昔の様子や、過去に存在した夕張鉄道、江当軌道、北電火力発電所・王子製紙の引き込み線などの在りし日の姿を写真パネル、映像等で紹介し、鉄道に支えられて発展してきた江別の歴史をたどった。

入場者 2,888 人



「入地 140 周年 江別の屯田兵の歩み」

期 間 平成 29 年 12 月 16 日(土)～平成 30 年 3 月 21 日(水)
内 容 平成 30 (2018) 年が、屯田兵が江別に入地して 140 年に当たることを記念して開催。当館所蔵資料を中心に屯田兵制度や人々の暮らしなどについて紹介し、石狩川の交通の要衝として、地理的にも重要だった江別に入植した屯田兵の足跡をたどった。

入場者 1,242 人



平成 30 年度

「もっと知りたい!! 高砂遺跡～平成 29 年度発掘調査速報展～」

期 間 平成 30 年 7 月 14 日(土)～9 月 24 日(月)
内 容 江別市内の遺跡で最大規模を誇る高砂遺跡は、昭和 39 年から 22 回にわたる発掘調査が実施されている。この展示会では、平成 29 年度の調査で出土した遺物等を中心に、現物資料、写真、図などを展示して、広く埋蔵文化財と遺跡について紹介した。

入場者 2,038 人



「昔なつかし えべつ昭和レトロ館」

期 間 平成 30 年 12 月 15 日(土)～平成 31 年 3 月 24 日(日)
内 容 人々の暮らしや江別のまちが大きく変貌を遂げた「昭和」を、「戦中・戦後」から「経済成熟期」まで 4 つの時代に区分し、当時の生活道具や写真などを展示したほか、昭和 40 年頃の一般家庭の居間をイメージした「再現コーナー」や、当時のおもちゃで遊べる「体験コーナー」も設置した。

入場者 2,590 人

